

第4回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会における会議概要

期日：平成22年9月6日(月)9:30~12:00

場所：大津合同庁舎7-A会議室

- | |
|--|
| 1.開 会 |
| 2.議 事 |
| (1)前回の協議会の概要について |
| (2)「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」(第4次)について
答申素案 |
| (3)その他
今後のスケジュール |
| 3.閉 会 |

【出席委員】(五十音順)

内田委員、宇野委員、加藤委員、金森委員、神部委員、桑名委員、清水委員、谷口委員、西岡委員、藤井委員、宮田委員、吉久委員

【欠席委員】熊田委員、大河委員、堀委員

1.開 会

配布資料確認

2.議 事

(1)前回の協議会の概要について

事務局説明

第3回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会の概要報告(資料1)

(2)「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」(第4次)について

答申素案

事務局説明

今後の滋賀における生涯学習推進のあり方について(答申素案)(資料2)

(会長)今、ご説明いただきました内容について、これから議論していただきます。第3回の協議会と、各課の意見聴取に基づいてまとめたものですが、みなさま方のご意見をいただきまして、修正していきたいと思います。大枠は前回もご確認いただいておりますが、これでもよろしいでしょうか。「滋賀」「滋賀県」「本県」という、その統一はどのような基準でされておられるのか、説明をお願いします。

(事務局)いろんな施策とか事業は「本県」とか「滋賀県」にさせていただいて、基本的には「滋賀」という表現でさせていただきたいと思っています。

(委員)2ページで、最初は「滋賀における生涯学習社会の意義」だけだったんですが、2つに分かれたことで最初の1行目が「意義」を踏まえてということだと、2の位置づけがよく分からないので、「意義と視点」を踏まえてということですね。それと、1章の2の「滋賀における生涯学習社会づくりで大切にしたい視点」と、4の(2)の「滋賀の生涯学習社会づくりの視点」について、題目が似かよすぎて、違いが分かりにくいということで、提案ですが、2のほうを、「滋賀らしさ」を強調して「滋賀らしさを大切にしたい生涯学習社会づくりの推進」にしたほうが明確でいいんじゃないかと思っています。

(会長)そうすると、2ページの1行目の項目も変わってきますね。

(委員)それは「視点」でいいんじゃないですか。社会の視点として「滋賀らしさ」を大切にすることでしたら。

(会長)第1章の2と、第1章の4の(2)が、かなり重なっているんで、もう少しはっきりさせるような工夫が必要ではないかというご指摘ですので、また、考えていきたいと思います。

(委員)「滋賀における生涯学習社会づくりで大切にしたい視点」の文章で、「近年では多くの大学が集積しています」となってますよね。つながりが悪いので、例えば「近年では多くの大学が集積し、高等教育機関の充実が図られました」という文言を入れて、それらの特徴を生かしながら、「滋賀らしさ」とつなげていくのはいかがでしょうか。

(委員)「情報化」で、パソコンの普及率何%とか、携帯電話の世帯普及率何%全国1位って書いてあるのが消されてるんですが、これは消さなくても、これが逆に言えば滋賀県の特徴だと思ってるんです。

もう1つは、「情報ネットワークに接続できる人とできない人」が情報格差の問題として書かれてるんですが、そういう物理的な問題よりも、家にインターネットが引かれてて、携帯電話を持ってるけど、使い方が分からないっていう情報格差のほうが滋賀県の場合は問題だと思うんですね。この間、生涯学習講座で、携帯電話のこと質問されて、携帯電話で新幹線の切符の予約ができると聞いたんですが、どんな仕組みになってるんでしょうか、お金はどうやって払うんですかって、たくさん、高齢の方から訊かれたんです。駅に切符を買いに行ってたやり方と違って、お金はカードで落ちるから、クレジットカードを持ってなかったら、携帯電話を持っても、新幹線の予約は使えないんですよって説明したら、そういう仕組みになってたんですかって言われるんですけど、携帯電話さえ持ったら誰でも予約できると思っておられる方、多いんですね。情報ネットワークを活用できる方とできない方との間の情報格差なんです。だから例えば「誰もがネットワークサービスの利便性を受けることができるように情報格差の解消が求められています」ってされたほうが、より分かりやすいと思います。

2点目は、「情報セキュリティの脆弱性」とか「サイバー犯罪の増加」って書かれてるんですが、今社会問題になってる、個人情報の保護や漏洩っていう問題も、入れたほうが良いと思います。情報セキュリティの脆弱性で外部から侵入されて個人情報が漏洩したっていうのは20%もないんですね。80%以上は人的ミスなんです。USBを盗まれて個人情報が漏れたとか、USBを落としたとか、そっちのほうが多いんですね。モラル教育も大事なんですけど、モラルっていうのは、良い悪いですよ。でも、悪いということ知らなかった、そういうつもりじゃなかったけど個人情報が漏れちゃったっていうのが多いんですね。総務省はこれから5年間、プロジェクトでICTメディアリテラシーを学校や家庭や地域で培っていきましようっていう政策をしてるので、そういう力をつけていかないといけないと思います。

3点目は、「学校における情報教育を一層推進する必要があります」ってお書きなんですけど、学校でそういうことは習ってない世代の方が親になっておられるんですね。だから学校だけじゃなくて、学校や家庭や地域における情報教育をいっそう充実していくことが生涯学習の役目だと思ってるんです。親が子どもに教えようと思っても親が知らないから教えられない、それが現状です。以上3点です。

(会長)接続だけでなく、活用に関してということや、ICTメディアリテラシーっていう言葉をいただきましたけど、これはもう、この中に入れて使っていける段階に入ってるんですか？

(委員)総務省はもうそういう言葉を使ってますね。学校教育だけでなく、生涯学習の分野で情報施策をやってて、社会の情報化を進めてます。知らないうちに加害者になってしまう事例が増えてますので。

(会長)これは以前もご指摘いただいたと思います。家庭や地域、そういうところでの学習が必要だということですが、それと、最初のご質問のところなんですけど、83.5%で全国2位、95.3%で全国1位っていうのを消さないといけない理由をお願いします。

(事務局)この数値は、総務省の全国消費実態調査の平成21年度の数字を拾ったんですが、実は、この

調査で項目が分かれてまして、家族の構成を2人以上の世帯と単身世帯と、総数に分かれてまして、この数字は2人以上の世帯の数値を拾ってました。そうするとパソコンは全国第2位、携帯電話は全国第1位なんですけど、2人以上の世帯と単身世帯を合わせた総数でいくと11位と8位に落ちてしまうんです。ちょっと順位が低すぎるので、表現を直して、全国的に見ても平均よりは上で、ブロードバンドの世帯普及率は全国第4位としたほうが、現実合ってるということで訂正させていただきました。

(委員)「環境問題への取組」のところで、女性団体、地婦連のほうでは、粉石けん運動を推進しておりまして、各市、各学区、各家庭のほうまで配達をしたり、女性が持っていきたりしておりますので、入れていただければありがたいと思います。それと、河川の水質調査も長年やっております。

(委員)環境の意識が高いと書いてあるわりには、ゴミのことしか書いてないという印象を受けました。滋賀に住む人の環境の意識が高いってということは、ゴミだけに限らず、水質のこととか、生活に密着した石けんを使うとか、前の会議でも申しましたけど、体験をともなった森林とか琵琶湖への接し方に関心を持って移住する人も増えていますので、体験をともなった自然環境の学習意識への関心の高まりも、滋賀の人は高いってことを盛り込んでいただけたら、それは「滋賀らしさ」かなという気もします。

(会長)環境は滋賀の生涯学習のメインですので、きっちりと書いていくというご提案でございます。

(委員)8ページですが、たくさんの外国籍の方が滋賀県にお住まいになって、1つ視点として、外国籍の方と日本人との交流という言葉、多文化共生を作っていく中で、お互いがお互いのことを理解し合っ、人権を認め合うというには、お互いが勉強しあうんじゃなくて、お互いが顔を合わせながら交流していくのが非常に大切になってくると思いますので、交流という言葉がこの中に欲しいと思います。

(委員)4ページですが、県内の全ての小学5年生「うみのこ」とか、たんぼの体験事業とか具体的に書かれてるんですが、県の事業として具体的に書かれてるので、ここはさらっと宿泊体験学習とか森林体験交流とかにして、市民団体の取組、女性の団体の取組を具体的に挙げたほうがいいと思います。

(委員)2番と3番の関わりで、「滋賀らしさ」で「環境」と「歴史・文化」と「近江の心」が出てますよね。けど、次の現状と課題のところは「環境」は出てるけれども、歴史とか文化に関わった部分が全く記述されてない。「近江の心」は難しいから、せめてここで、歴史とか文化における滋賀県の生涯学習の状況と課題は、環境問題と並んで記述されてないとおかしいと思うんですが、それは書けますか？

(事務局)2番と3番の関係ですが、3番を書くときに、これまで議論の中で出てきた項目、あるいは県のマスタープラン、教育振興基本計画をもとに、この項目を選びました。「近江の心」「歴史・文化」については、あまりマスタープランや振興基本計画の中で出てきてなかったもので、抜けていたというのはおっしゃるとおりだと思っております。検討しないとなんとも言えないですが、「近江の心」についてはモラル的なところがあるので、どこまで書き込めるかというのがちょっと悩ましいところがあるんですが。

(委員)高島のほうだったら、そういう重視した地域づくりまちづくりって、結構やってそうな気もするんですけどね。

(事務局)どこまで書けるのかってところ、特に「歴史・文化」であれば、こういう文物を生かして、例えば県の観光に結びつけるとか、どこまで書けるのか、検討させていただきたいと思います。

(委員)どういう形でもいいから、やっぱりそれは書いておくべきだと思います。「国際化」のところにも「県民一人ひとりが、日本の歴史や文化・伝統を正しく理解する」って書いてありますから。

(会長)4ページの下のところ、図書館、美術館、博物館等、滋賀県っていうと、学生たちも、こういう

ところが充実しているっていうのを1番にイメージするところです。実態としては、今、お金がなくなってきて段々苦しくなってくる、そこをいかに乗り越えて充実させていくかというのが課題だと思いますし、そういうことも踏まえて、何らかの形で書き込むというご提案でございます。

(委員)3番の最後に、「などの人権問題」というように、大枠で位置づけていただいている、現代的課題に対応したっていうことで書いてあるわけですが、滋賀県の各地域で見ても、結構、人権教育の推進の組織があったり、地域でのつながりの中で大きな位置を占めている部分ではないかなと考えるときに、人権っていうのは1つの項立てをしてあるほうが、具体的な姿なんじゃないかなというのを感じましたし、そのことが「近江の心」や「国際化」にもつながっていくんじゃないかなと感じました。

(委員)同じことなんですけど、まだまだ課題の多い部分で、社会からの要請の部分でも、これから進めていけないといけない部分なんで、独立性があったほうがいいのかなと思います。

(会長)滋賀県の人権教育等は全国的にも有名ですし、人権問題の取組も全国的にも高い評価をいただいていますので、現状と課題で人権をもう少しきちっとした位置づけでと思います。

(委員)9ページのところで、防災等に関する内容が少ないと思います。持続可能な社会では、地震とか、気候の変動に伴う集中豪雨とか、落雷、そういうものをこれからも真剣に学習していく必要があると思うんで、「防災や防犯、交通事故防止対策などの社会リスクの学習」とかが、大事じゃないかと思います。

(会長)今、大変注目を集めて、非常に重要とされてます。ここでは「安全・安心」なんですか？われわれは「安心・安全」って使うんですが、ぱぱっと付け足してあるような感がありますので、この部分の位置づけをもう少し考えてみてはというご提案でございます。

(委員)3番の現状と課題で、きちっと整理していかないと、次につながっていかないとということで、「健康」「環境」「子育て」とか、いろんな分野で出てるんですが、ちょっとお尋ねという形で、「NPOやボランティア活動」が、後半へ行くと活動の各主体という項目でまた出てきますので、他とはちょっと並びが違うのかなということもあって、主体としてのボランティアとして捉えるならば、もうちょっと踏み込んだ言い方もあるのかなと思います。この課題の並びで、他とはちょっと違うのかなという気がします。

(会長)ご指摘のとおりで、「健康」「働く」「環境」「子育て」「国際化」「情報化」という並びの中で、「NPOやボランティア活動」は、それを推進していく主体のことですので、これをここに入れてどうかということ、協議の中で出てましたので、入れていただいているんだと思います。

(事務局)主体としてのNPO・ボランティアもありますし、ここで上げているのは活動として触れていきかけた、実際、県民意識調査でも、地域や社会に役立つ活動をするための意識が高いとか、実際の活動者が多いのが、滋賀の特徴として上げていきかけたので、確かに「環境」等とは並びとしては違うのかも分かりませんが、入れていきたいなということで入れているところです。

(会長)協議の中でも、この重要性と課題について出てましたので、入れていただけてますが、また検討していくということにします。場合によっては、ちょっと文言を変えて、内容的には同じような内容で入れていただくということもあるかと思います。第1章の1、2、3に関しまして、様々なご提案をいただきました。全体のボリュームとか並べ方とか、最終、調整させていただきたいと思います。それでは、第1章の4の「滋賀の生涯学習社会づくりの構想で大切にしたいこと」に関しまして、みなさんのご意見をお聞きして、答申案に取り入れさせていただきたいと思います。

(委員)まず11ページ、先ほどの1の部分との関わりですが、(2)の「視点」という表現が、上の方でも「視点」という形で使って、また「3つの視点」という言い方をして、どこに焦点を置かれた視点な

のかっていうのがあるので、この「視点」を、例えば「滋賀の生涯学習社会づくりの3つの柱」にして、その「柱」を通して「滋賀らしさ」の視点を含めた生涯学習社会づくりをしていくんだよってというのがまず1点と、1ページの目次に「まなぶ」「いかす」「つながる」っていうのがあるんですが、その1つ1つの副題の書き方がバラバラなんです。『個人と社会のニーズに応じた学び』って体言止めになってたり、『設定と充実』になってたり、『つながる』で終わってたり、どの視点から物事を見るのか非常に分かりづらい。1番見て分かりやすいのは多分『いかす』のところ、『学びの成果を生かす機会の設定と充実』を重点的にやっていきますよって、表現的に分かりやすいとすれば、例えば上のほうは『個人と社会のニーズに応じた学びの提供』あるいは『学びの設定と充実』にするか、あと3番でしたら、『人と人、人と社会、まなぶ』と『いかす』など多様なつながりの支援』とか『支援と拡充』とか、ここはキーワードになるものですから、合わせていく表現にしていただかないと、バラバラな感じです。

今日は特に『滋賀らしさ』に注目してるんですが、1番最初に『滋賀らしさ』を生かした生涯学習づくりをしますよと言いながら、それ以降『滋賀らしさ』が出てきてないんですね。『滋賀らしさ』を生かした学びとか、『滋賀らしさ』を生かした学習機会の提供に努めるとか、そういう文言が入ってないと、どうやって『滋賀らしさ』を実現していくんだっていうことになりますよね。大切なのは『いかす』ことにおいても『滋賀らしさ』をみんなが理解して、それをより豊かにしていくための活動が、もしかしたら1番、今回の流れからいくと、大切な活動になるんじゃないですか。

あと細かいことですが『イ』のところの『学習の成果を活用して～』っていうのを、突然これ出されても、これは行政の役割としてですね。社会教育法の第5条が出てきてるので分かりにくいです。

あと、いろんなとこに出てきてるんですが、読んでる人にとって『各主体』と言われてたって、訳が分からない。他の前のところにもいっぱい『各主体』が出てるんです。あと『つながりの推進』ですが、『人と人』っていうのを強調したいようなんですが、これ読んでても、生涯学習計画の文章には見えないんですね。コミュニティ政策やコミュニティ計画として人と人とのつながりを作っていきますっていうのなら分かるんだけど、これはあくまでも生涯学習計画なので、学習を通して人と人をつなげて、それを地域づくりとかまちづくりにつなげていきますっていう書き方をしないと、何のためにこの人と人の枠を作るのかっていうことが分からないので、ここを考えてもらいたいのと、またの下の下線のとこにある『つながる』ですが、ここには学習のことしか書いてないんですね。『まなぶ』ことよりもむしろ『いかす』ほうにどうつなげていくかっていうことが非常に重要課題なので、『各主体による学習活動や学習成果の活用は、様々な時間や場所において様々な方法で進められています』とか『そこで、学びの場や生かしの場を設定している』とか、そういう形で生かす場のネットワークを意識して書いてもらいたいということですね。『各主体』は、前に戻って、1番最初に出てきたとこで『各主体』とはこういうものと注でも入れるとか、工夫してください。

(会長) 大枠ができた中で、次に細かく整合性がとれるように、調整していく段階に来てると思います。全体のバランス等が上手く取れるように、それから、一方で上げて一方で上げてないっていうのがないように、今ご指摘があった点、非常に重要な点だと思いますので、そういう点も踏まえて、もう一度見ていきたいと思います。それから、『視点』がたくさん出てきますので、『柱』という1つご提案がありましたが、他にも何かありましたら、そういうのもいいかとも思いますし、『視点』も重ならないようにと思います。『主体』に関してはどうでしょう、どこかで、きちんとおさえておく必要があると思います。

(委員) 主体の説明は、1番最後までいかないと出てこないんですね。読む人には、主体って何？っていう話になってきますよね。

(会長) 様々な各主体がつながるということが非常に重要という議論を盛んにされてたんですが、『つながる』のところできちんと書かれたらいいなと思ったんですけど、学びを通して『人と人』『人と社会』が『つながる』という点、それから『まなぶ』と『いかす』が『つながる』ということもあります。各主体がつながれるようなシステムづくりをしていくことが、これから非常に経済的にも難しい状況の中で、各団体の活動を生かしていくために重要という議論が出てましたので、もう少し『つながる』のところで書いていただけたらなと思います。基本目標が仮題となっておりますが、『つながりで未来を拓く 滋賀の生

涯学習社会づくり」「まなぶ いかす つながる」に関しましてはいかがでしょうか。

(委員)「まなぶ いかす つながる」という三位一体は大変分かりやすい表現だと思います。良くない例を申しますと、大学生とか若者が、大麻とかマジックキノコの栽培を、ネットで学んで、それを生かして、栽培して、仲間とおしで交換すると、まさに「まなぶ いかす つながる」なんですけど、大事なことは、売り手よし買い手よしやけど、世間よしじゃないやろうって言ったら、学生も納得します。「滋賀らしさ」の三方よしを、「まなぶ いかす つながる」は良いんだけど、そこに世間よしいというのが入らないと、本当の意味での社会が発展していく生涯学習にならないっていうのを入れたらいいと思います。

(会長)細かい指摘いただきましたように、あと全体のバランスを考えて、上手く調整していく必要があるかと思います。それでは第2章「各主体の取組」に関しまして、ご意見をお伺いしたいと思います。

(委員)「NPO・ボランティア団体に期待される取組」のところで、「つながる」のところで「行政と協働しながら、ネットワークを構築・充実させていく」となってるんですが、NPOはもちろん行政ともですけれども、NPO同士、あるいは企業とか大学とか、様々なところとネットワークを柔軟に、その時々々の課題や地域のニーズに応じて、ネットワークを使って、課題を解決していくというニーズに応じていくことをやっていきたいと思っておりますので、ここはもう少し幅広い協働が必要かなと思います。

(会長)各主体との協働ですね。ニュアンスの問題なので、いいかなとも思うんですが、NPOとか、それぞれの各主体ですね、主体自体も生涯学習の機会であるわけですよね。それが、生涯学習機会を県民に提供するっていう、提供が強調されてるような形なのと、それも必要だと思うんですが、ハンブルグ宣言などでは、県民も市民も個人も、生涯学習の機会をつくる責任があるとなっておりますから、ただ、提供というんじゃないくて、つくるっていうところに重きを置いて、文言が入れ込めたらなと思います。

(委員)ここ全体ですよ。上のところも提供し支援を行うって書いてあるので、全体ですね。

(会長)15ページの1が消してありますね。ちょっと惜しいと思いますのは、その「つながる」のところの「各主体は、コーディネート力を高め、互いに連携と協働を図ること」という、非常に重要な点が消えてしまってるのが残念なので、どこかにこれが出てくるといいなと思います。各主体に期待される取組は、上手くまとめてあると思います。こういうまとまったものがあるとすごく分かりやすいと思います。

(委員)文言の意味なんですけど、「学校・大学等に期待される取組」の「つながる」のところにある「社会教育施設等」で「公民館、図書館」が消してあるんです。ずっと前段のほうは、丁寧に「公民館、図書館等の社会教育施設」って説明があるのに、ここから消してあります。社会教育施設っていうのは専門用語でなかなか市民・県民の人は理解しにくいので、きちっとした説明がいのかなと思います。

(委員)15ページの「県民に期待される取組」の「まなぶ」っていうところですけども、「滋賀らしさ」を取り入れるという意味では、滋賀県人は向上心をとて持っているっていうこともありますので、そこに向上という言葉を加えていただければ「滋賀らしさ」が強調されるのではないかなと思います。

(委員)ただ県民に向上心って言うときに、県民に期待する学びは、自発的意志に基づいてるだけでいいんですか？それに基づいて「滋賀らしさ」とか地域課題は、学ばないんじゃないんですか？そういう要求課題だけでなく、地域課題も学ぶ姿勢っていうものを求めるような表現にしとかなないと、結局、趣味教養を学んでくださいってことになるんじゃないですかね。県民の役割として、学びたい要求課題だけでなく、必要課題も学ぶ姿勢をもって生涯学習に取り組んでくださいっていう表現にすべきですね。

(会長)これも全体の調整、バランスだと思いますが、最初にその両方が書いてありますので、ここでもその両方を取り入れてということですね。

(委員)「県民に期待される取組」は、もうちょっといろいろな文言を入れたほうが良いと思います。「まなぶ」の2つの視点のところで、個人の要望と社会の要請が出てきますので、きちっと整理して、つなげていくことによって、次に「いかす」「つながる」になってくると思いますので、さらっとしすぎかなと。生きがいや充実感も、とっかかりのところでは個人にとっては非常に必要な要素だと思いますので、こういうところでも上手に表現しながら、ちょっと他の取組とは変わった、もうちょっと気持的なものが入った期待になってもいいのかなって思いますので、ここは他のレベルとちょっと変えた、もうちょっと熱い思っているか、優しい思いを持った、期待って表現してもいいのかなと感じました。

(会長)生涯学習は主体性重視ですので、県民に対してというところでは、非常に書くのが難しいところだと思いますので、今おっしゃったご意見を踏まえて工夫しながら、どこまで書けるかというところですが、最初のところにとりあえず、2つの方向っていうのがありますので、そのへんをやんわりとやる中で、少し熱く、バランス的に書いてもいいかなというところですよ。

(委員)「学校・大学等に期待される取組」で、今までとどういう点で違う部分を出していけるのかなと感じたときに、今の学校教育が地域の人材を取り入れながら、学校教育を充実させるということで、役割を果たしていることにとどまっているのかなと思うので、例えば「いかす」という部分で、学習ボランティアの受け入れを通して、学びを生かす場を提供するであるとか、ともに地域課題を考えて、その課題解決に、ともに学校も一緒に当たるとか、生涯学習の中の学校という位置づけの文言を入れていくことで、子どものためのボランティアという意識とともに、地域の中での学びの場という部分を入れていくことができるんじゃないかなと思いますので、「いかす」か「つながる」かどちらかに入ってくると思います。

(委員)「社会教育施設等に期待される取組」の「いかす」のところですが、「場の設定や人材の育成、活動の支援等を行う」と書いてるんですが、人材の育成だけじゃなくて、人材の活用というのも非常に大事なと思うんですけど、そのへんも入ったほうがいいんじゃないかと思います。

(委員)15ページの1が全部消えて、「地域の資源」「人材」「伝統文化」「環境」が全部消えてしまうんですが、それ以降、どの主体の取組の中にもそういう言葉が出てこないんですが、この「人材」「伝統文化」「環境」というのは、どこかの主体の中に入ってもいいのかなってというのが1点と、それと17ページの6の1番下、「レファレンスの充実」という言葉が、注釈なり何かがあるほうが良いと思います。

(会長)「滋賀らしさ」をもう少し加えていくという点と、「レファレンス」のご指摘いただきましたが、その他も、分かりにくい用語等、チェックする必要があると思います。「滋賀らしさ」を大きく含めて地域って書いてしまうのか、もう少し具体的に書き込んでいくのか、全体のバランスの中でどこまで書き込むかということだと思いますが、これも最終的な調整の中で考えていかなければならないと思います。「各主体の取組」がちょっとあっさりしているような感じがするんですよね。まとめて書いてるので、1つの文言の中に全てが込められているんですが、ちょっと物足りなさというのを感じます。

(委員)「滋賀らしさ」も、滋賀県全体で一つというわけじゃないので、「地域に期待される取組」の中に、それぞれの地域の特色を入れられるので、もうちょっと詳しく入れられるんじゃないかなと思います。

(委員)言葉尻ですけど「こと」という文言が取れて、優しくなって、大変見やすくなったと思います。

(会長)ご指摘のように「こと」も取れて良かったところですが、それも含めて全体でどういう印象を与えるかということも考えて、最後、修正していく必要があるかだと思います。

(委員)1の共通の部分は、どこかに置いたほうが良いかもしれませんがね。最初に持ってくるよりは、1番最後に。それぞれが勝手にやってよってというイメージにしかとれないんですよね。そうでなくて、それぞれの独自の役割を示しておいて、その1つ1つが協力し合って初めて、滋賀の社会づくりができるっ

てしたほうが、綺麗で収まりがつかますよね。それぞれがやるべきことをやるだけでは、全体としてのまちづくりとか地域づくりはできないので、最後のまとめとして置くのがいいかもしれませんね。

(委員)資料3のイメージ図の「各主体の取組」の中で、「まなぶ いかす つながる」の中に「滋賀らしさ」という言葉が入って、各主体がつながっていく図式化がされていくといいかなっていうのが1点と、「県民」と「地域」、2つ大きく上に構えてくださるのは、県民と地域に期待される取組が、各主体よりも少しボリュームがあって、膨らんでくるのかなと思うのですが、そういう位置づけでよろしいんですね？

(事務局)学びを主にされるのは県民とか、地域もちろん提供もあるんですが、周りのNPOから行政はそういう場を提供する割合が多いという言い方にさせてもらったほうが分かりやすいと思うので、そういう意味で割り振ったという位置づけです。

(会長)主体的にする県民、それから地域の2つが上に収まるのが良いかなと思いますが、この図のバランス等も、検討する必要があるかと思います。それから、この1を落としてしまうのはちょっと不安だったんです。「いかす」のところも「地域の資源」「人材」「伝統文化」「環境」を有効に生かすこと等も書いてますので、「滋賀らしさ」とか基本となるものをきちんと押さえて、できたら取り入れていくという形でいければいいかなと思います。他のところで細かく書かなくても、「滋賀らしさ」や地域の特色をここに書いておけば、全てに共通するという点で、協働して、つながってという点が強調されていくのではないかと思います。

(委員)「学校・大学等に期待される取組」ですが、「自ら考える力や思いやりの心など生涯学習の基礎としての力を育む」となってるんですが、基礎となる力は、心技体、知育・徳育・体育だと思うんですね。学力があって、心の教育、豊かさがあっても、健康や体力がなかったら学べないと思うんです。だから「人間性およびたくましく生きるための健康や体力といった」というのが消してあるんですが、「考える力や思いやりの心など」とせず、健康や体力っていうのは入れておくべきだと思います。

(会長)体力づくり、非常に叫ばれてるところですし、復活するかと思います。知徳体の面をきちんと書くということですね。まだまだ、話し合いの中でどんどん刺激し合っ出てくる問題、課題があると思うんですが、またメール等でご連絡いただきたいと思います。全体的なバランスとして、一部に書いてあって一部に書いてない、それからボリュームの問題、順番の問題、そういう整合性を整える必要があると思います。細かく文言、足すべきこと等、ご指摘いただきました。ご提言を取り入れて、答申を作りたいと思います。用語に関しまして「視点」ということ、タイトルとテーマ等もまた全体のバランスを考えて、書いていきたいと思います。みなさんにお渡しして見ていただいて、次が最終協議になります。たくさんご意見いただきましたが、ちょうど時間になりましたので、事務局にお返ししたいと思います。

(3)その他

事務局説明

今後のスケジュール

3.閉 会